

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	35500	
事業名	子どもの文化芸術体験事業費						
評価担当課	所属名	市)文化部 文化振興課					
	課長名	木戸 拓史	担当者名	藤田、平、小川	電話番号	011-211-2261	
施策名	主	将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ● 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	子どもが優れた文化芸術に触れる機会の充実を図る。				
		長期	子どもの豊かな感性や創造性を育み、文化芸術の未来を担う人材を育成する。				
	取組内容	子どもたちにさまざまな文化芸術の鑑賞・体験機会を提供する事業を実施する。 ①おとどけアート事業:小学校にアーティストを一定期間派遣。子ども達がアーティストと美術などの作品を制作 ②ハロー!ミュージアム事業:芸術の森美術館等で、子ども達に鑑賞マナーの学習機会や鑑賞・創作活動の体験機会を提供 ③子どものミュージカル体験事業:劇団四季のミュージカル(無料招待)を共催で実施(R3・R4は未実施) ④ギターファーストコンサート事業:優れた音響を誇るKitaraで、オーケストラ等の演奏を鑑賞し、コンサート鑑賞のマナーを学ぶ					
実施結果	①市内の4小学校で実施し、児童1,754人が参加。 ②市内140校の小学5年生10,373人が参加。 ③新型コロナウイルス感染症拡大により実公演は中止。代替措置として動画配信を行った。 ④新型コロナウイルス感染症拡大により9月の5公演を中止したが、11月及び12月の6公演は実施し、中止により参加不可となった学校へは無観客コンサートのウェブ配信を行った。 ⑤令和4年度の参加型音楽ワークショップの実施に向けた調査検討を行った。						
事業実施における工夫点	なし						
対象者	市内の小学生、障がい者等			開始	0年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	札幌市文化芸術基本条例						
他都市の状況	①アーティスト・イン・スクール事業として、全国で実施②全国にある多数の美術館において、教育普及事業として実施③「こころの劇場」として全国各地の自治体で実施④石狩管内(石狩・江別・千歳・恵庭他)で平成17年度～札幌広域圏組合が主体となり実施⑤アクロス福岡「アクロス学校キャラバン」						

## ◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	14,826	36,000	33,449	37,000	
うち特定財源	2,207	2,358	2,358	3,392	
人工	0.8	0.6	0.6	0.6	
人件費	5,760	4,320	4,320	4,320	
計(事業費+人件費)	20,586	40,320	37,769	41,320	
事業費の内訳	令和3年度決算	時間外勤務手当:578千円 その他委託料:693千円(⑤) 使用料・賃借料:0千円(③) 使用料・賃借料:92千円 補助金:32,086千円(①:1,222千円、②:8,552千円、④:22,132千円)			
	令和4年度予算	時間外勤務手当:511千円 その他委託料:1,800千円(⑤) 使用料・賃借料:0千円(③) 補助金:34,689千円(①:1,222千円、②:8,552千円、④:24,915千円)			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	全校参加型事業における市立小学校の参加率平均			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	52%	98%	71%	98%	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	設定困難:事業効果は参加率で計り学校以外に波及しないため			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	—	—	—	—	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	B	市内の小中学校から多数の児童が参加し、アーティストとの交流のほか、質の高い音楽や美術作品に触れる機会を創出することができた。また、本市の文化芸術基本計画に掲げる「子どもたちの文化芸術活動の充実により、札幌の文化芸術の未来を担う人材の育成を図ることができる」に資する取組みとなった。新型コロナウイルスの影響により一部事業が中止となったが、③及び④については代替措置を講じるなど、鑑賞機会の確保に努めた。⑤他都市事例調査等により、課外活動のニーズや打楽器を用いたワークショップの有効性を把握でき、令和4年度の実施に向けて、方向性が定まった。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	①については、実施主体の運営規模上、現状以上の学校に対し事業を実施することは困難なため、妥当である。 ②、④については、市内のほぼ全ての小学校の対象学年の生徒が参加することができ、適切である。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	美術や音楽の分野において専門性を有する団体が事業を担うことで、上質な芸術を子どもたちに提供することが可能となっている。また、②、④については実施主体である札幌市芸術文化財団に本市が補助金を交付することにより実施しており、現状の手法は適切である。⑤については、幅広い層に向けた多様な音楽イベントを提供する知識や経験があり、ワークショップ会場の候補となる施設の特徴を熟知している(公財)札幌市芸術文化財団への委託により実施しており、実施手法は適切である。			
対象者の満足度 (対象者のニーズにしているか)	A	「子どもたちが優れた文化芸術に触れる機会の充実を図る」との事業目的のとおり、この事業を通じて文化芸術に触れた生徒や教育現場からの評価は総じて高く、対象者のニーズに応えた事業である。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	①、②は学校や教育委員会とも連携し、事業の質の向上を図ることで、対象者のニーズに沿った事業の展開が必要である。 ③は、3年ぶりの実公演開催を目指し、前回実施時の課題を整理し、実施する必要がある。 ④は、助成金など新たな財源が確保できないか、継続して検討する必要がある。 ⑤は、ワークショップの実施結果やアンケート結果を分析し、今後の事業実施に向けて、改善点を検討する必要がある。				
前回の評価	<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	④について、全ての公演を中止とせずに感染状況を見据えながら開催可否を随時判断していくことで一部公演を実施するなど、最大限の鑑賞機会確保に努めた。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	新型コロナウイルスの影響により一部の事業が中止となったものの、最大限の鑑賞機会確保に努めており、その結果、多くの対象児童がそれぞれの事業に参加できており、事業の目的を十分達成しているものと判断する。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input type="radio"/> 改善 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 休止・廃止 現状の事業内容及び規模を継続することを基本に、引き続き感染拡大防止に留意するほか、より子どもたちの豊かな感性や創造性を育むことができるよう、必要に応じて適宜事業の見直しを図る。			
	予算	<input checked="" type="radio"/> 拡充 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> その他 市内小学生を対象とした新規事業(ニッセイ名作シリーズ鑑賞事業)の実施や④については、参加対象校の増を予定していることから、予算についても拡充が必要である。		見直し効果額	0